

問 次の傍線部の「に」の文法的説明として正しいものを、後のア～キから選び、符号で答えよ。

- ① 静か に^a 思へば、よろづに過ぎ に^b しかたの恋しさのみぞ、せんかたなき。
- ② 寄りて見る に^c、筒の中光りたり。
- ③ 春日の里 に^d するよしして狩り往 に^e けり
- ④ 野山にまじりて竹を取りつつよろづのこと に^f つかひけり。
- ⑤ 道のほども知り に^g しかば、はるか に^h 恋しく心細きことかぎりなし。
- ⑥ (旧友は) 老いさらばひてある にⁱ や、はた死 に^j けるにや。
- ⑦ まこと に^k さ に^l 候ひけれ。もつとも愚か に^m 候ふ。

選択肢

- ア 完了の助動詞「ぬ」の連用形 イ 接続助詞 ウ 断定の助動詞「なり」の連用形
 エ 格助詞 オ 形容動詞の一部 カ 動詞の一部 キ 副詞の一部

k	f	a
キ	エ	オ
l	g	b
ウ	ア	ア
m	h	c
オ	オ	イ
i	d	
ウ	エ	
j	e	
カ	ア	

氏名年組番

今度は語の識別練習 日々問題 (2) ※「なり」「なむ」の識別

問 次の傍線部の「なり(る)」「なむ」の文法的説明として正しいものを、後のア～クから選び、符号で答えよ。

- ① 急ぎ参らせてご覧するに、めづらか なる^a ちこの御かたち なり^b。
- ② 男もす なる^c 日記といふものを女もしてみんむとてする なり^d。
- ③ また聞けば、侍従の大納言の御女亡く なり^e たまひぬ なり^f。
- ④ 吉野 なる^g 夏実の川の川淀に鴨ぞ鳴く なる^h 山かげにして
- ⑤ 死なば、一所で死 なむⁱ。
- ⑥ もし賢女あらば、それもものうとくすさまじかり なむ^j。
- ⑦ 若くて失せにし、いとほしく、あたらしく なむ^k。

選択肢

- キ エ ア 伝聞・推定の助動詞 ク オ イ 断定・存在の助動詞 ウ カ 推量の助動詞
 係助詞 ナ行変格活用動詞の一部

k	f	a
キ	ア	ウ
g	b	
イ	イ	
h	c	
ア	ア	
i	d	
ク	イ	
j	e	
カ	エ	

氏名年組番

問 次の傍線部の「ぬ」「ね」を文法的に説明せよ。

- ① あはれ、今年の秋もいぬ^a めり。
- ② 潮満ちぬ^b。風も吹きぬ^c べし。
- ③ 日かずのはやく過ぎぬるほどぞ、ものにも似ぬ^d。
- ④ はや舟出だして、この浦を去りぬ^e。
- ⑤ 人の心すなほならぬ^f ば、偽りなきにしもあらず。

f	e	d	c	b	a
打消の助動詞「ず」已然形	完了の助動詞「ぬ」命令形	打消の助動詞「ず」連体形	強意の助動詞「ぬ」終止形	完了の助動詞「ぬ」終止形	ナ変動詞「去ぬ」終止形の活用語尾

氏名	年組番
----	-----

今度は語の識別練習 日々問題 (4) ※「な」の識別だけ

問 次の傍線部の「な」を文法的に説明せよ。

- ① 竜の首の玉取り得ずは、帰り来な^a。
- ② この影を見れば、いみじう悲しな^b。
- ③ 月な^c 見たまひそ。
- ④ 用ありて行きたりとも、そのことはてな^d ば、とく帰るべし。

④	③	②	①
完了の助動詞「ぬ」未然形	禁止の意の陳述の副詞	終助詞・詠嘆	終助詞・禁止

氏名	年組番
----	-----

問 次の傍線部の「らむ」「し」の文法的説明として正しいものを、後のア～クから選び、符号で答えよ。

- ① このごろの山の紅葉は、いかにをかしか らむ
- ② あたら夜の 月と花とを 同じくは ころろ知れ らむ 人に見せばや
- ③ 久方の 光りのどけき 春の日に しづ心なく 花の散る らむ
- ④ 聞き し^a にも過ぎて、尊くこそおは し^b けれ。
- ⑤ 時にはあはず し て止みぬる、また多し。
- ⑥ 年ふれば し^{とほひ} 齢は老いぬ し しかはあれど 花を し 見れば 物思ひもなし

選択肢

ア 現在推量の助動詞
 エ 完了・存続の助動詞 + 推量の助動詞
 カ 接続助詞の一部
 イ 過去の助動詞
 ウ 強意の副助詞
 オ 格助詞の一部
 ク サ行変格活用動詞の一部

⑤	①	③	ア	④ a	イ	④ b	ク
カ	キ						
⑥	②						
ウ	エ						

氏名	年組	番号
----	----	----